



第66回日本医真菌学会総会・学術集会

会期 2022年10月1日(土)～2日(日)

会場 長良川国際会議場

会長 三嶋 廣繁 先生(愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学 教授)

ハイブリッド開催

現地開催および
WEBによるライブ配信

教育セミナー 8

爪白癬の外用療法を再考する

日時 2022年10月1日(土) 18:45～19:35

会場 長良川国際会議場 4階 大会議室AB 第2会場

■座長

東京警察病院皮膚科 部長

五十棲 健 先生

■演者

「爪白癬治療における アドヒアランス向上のコツ」

金沢医科大学皮膚科学講座 准教授

竹田 公信 先生

■演者

「外用爪白癬治療薬を積極的に使用する」

関西ろうさい病院皮膚科 部長

福山 國太郎 先生

●現地でご参加の場合

参加希望の方は直接会場にお越しください。

●WEBによるライブ配信にてご視聴いただく場合

下記URLまたは右の二次元コードから学会ホームページにアクセスしご確認ください。
なお、共催セミナーで参加には学術集会の参加登録をお願い致します。

<https://med-gakkai.jp/jsmm2022/>

スマートフォンの方はこちら▶



「爪白癬治療におけるアドヒアランス向上のコツ」

金沢医科大学皮膚科学講座 准教授

竹田 公信 先生

爪白癬治療の対象者は高齢者であることが多く、また重症例も高齢者に多い。それゆえに、治療前および治療中のわかりやすく丁寧な説明が皮膚科医には求められる。途中離脱を避けるためにも、最初におおよその治療ゴールを設定し、健常爪の伸長により感染爪が押し出されることをパンフレットやスケッチなどでイメージしてもらうことが大切である。また、難治例ではKOH直接鏡検での菌糸像や真菌培養陽性の所見をみてもらい、視覚的に治療意欲を促進させることも一法である。また最近では治療経過が良好な患者に対して褒め続けることの重要性を実感している。さらに皮膚科医の専門技術としての爪の研削術や開窓術などを追加できれば、菌量を減らし薬剤の浸透を高めることで治療期間の短縮に貢献できる。今回、これらを駆使した当科で行う対応策について述べたい。

「外用爪白癬治療薬を積極的に使用する」

関西ろうさい病院皮膚科 部長

福山 國太郎 先生

SWOでは白斑部を削り取り外用抗真菌薬を使用するだけで治療することが多いことは知られていたし、外用爪白癬治療薬を用いれば単純塗布だけでも治療することが多い。楔形爪白癬でも切削処置の併用が勧められていたが、10%エフィナコナゾール爪外用液塗布のみでも高い効果が報告されている。自施設では、dermatophytoma14爪に対して切削処置と外用爪白癬治療薬との併用療法を行い、最終評価時には脱落例を除いた10爪中8爪が完全治癒、1爪著効、1爪が有効であったことを報告した。一般に経口抗真菌薬に比べ外用爪白癬治療薬は完全治癒率が低いものの、同等以上に効果が見込める症例もある。Dermatophytomaは肉眼的診断が困難な場合もあり、非侵襲的検査としてダーモスコピーが有用である。難治症例ではダーモスコピーを施行し切削処置の適応を検討することもよいと考える。外用爪白癬治療薬が奏効しやすい症例について自験例を供覧しながらお話する。